

## 正副議長就任記者会見 会見録（概要）

日 時：令和4年5月19日 14時20分～

場 所：議事堂3階 全員協議会室

（質問）幹事社です。よろしくお願いいたします。まずそれでは、議長と副議長から就任の抱負、意気込みとご挨拶も含めて語っていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

（議長）それでは皆さん、大変お疲れの中を、ありがとうございます。この度、三重県議会第112代議長に就任をさせていただきました。私自身、その使命と責務の重さに、身の引き締まる思いであります。この上は、県民の皆さまの期待と信頼にしっかりとお応えできるよう、副議長とともに円滑かつ効率的な議会運営に真摯に取り組むとともに、これまでの議会改革の成果などをしっかりと受け継ぎ、議長定例記者会見を始め、さまざまな場面において、県民の皆さまに分かりやすい、参加しやすい、開かれた議会を目指して頑張りたいと思っております。

コロナ禍で議会運営としましては、昨年に対応が取りまとめられた委員会でのオンラインによる県内外調査や、先日の代表者会議で決定された代表者会議と議会運営委員会におけるオンライン会議の試行などにも取り組むとともに、通年議会である三重県議会の強みを生かし、県政のさまざまな課題についてしっかりと、そして、迅速に調査審議をして参りたいと考えております。

この1年は、議員任期の最終年となります。4年間の議会活動の集大成とすべく、次期改選後の議会への提言にも取り組んで参りたいと思っております。どうぞよろしく、この1年間お引き回しをお願い申し上げます。ありがとうございます。

（質問）では副議長の方からもお願いいたします。

（副議長）私も先ほど副議長に就任させていただきました。やっぱり一番大きいのは、県民の皆さま、議員の皆さまの思いにお応えをしていく、そのための重責・責任の重さを感じながら対応していきたいと思っております。所信表明のときに申し上げたのですが、副議長は広聴広報会議を担当させていただきますので、先ほど議長がお話させていただいたように、開かれた議会ということを目指しながら、今まで先輩諸氏がいろんなやり方で広聴広報を進めてきておりますので、これを少しでも一歩でも前に進めることができたらなと思っております。特に、ここ4年ほど高校生県議会が延期になっております。当然コロナの問題もございますので、簡単に開けるかどうかという判断はありますが、できれば、収束を期待しながら開けたらなと思っております。

とにもかくにも、前野議長をお支えしながら議会のスムーズな運営に頑張りたいと思っております。皆さん方にもどうぞご支援賜りますようお願い申し上げます。

(質問) まず幹事社からお尋ねさせていただきます。お二人とも、パーテーションがありますので、もしよろしければ、マスクを取っていただけますか。

(議長) 皆さんご心配なければとらせてもらいます。

(質問) それではお尋ねしますが、まず確認ですけれども、正副議長の任期のお話ですけれども、基本的には次期改選までお務めになられるという確認でよろしいでしょうか。

(議長) はい。改選までの1年に決まっておりますので。

(質問) もう1年切ってますけど、あと所属会派ですけれども、離脱されるのか、それとも今の会派の所属は維持したまま正副議長お務めになられるのかというのはいかがでしょうか。それぞれお願いいたします。

(議長) 私の場合は現状のまま政治活動させていただきたいと思います。

(質問) 副議長、いかがでしょうか。

(副議長) 議長に倣ってということで続けさせていただきたいと思っています。ただし、役職はほとんど外させていただきます。

(質問) 冒頭のご挨拶の発言を踏まえてお尋ねさせていただきますが、まず議長のほうですが昨日の所信表明会の際に、本会議もオンラインでできないかということで検討を進めたいというようなご発言ありました。これには地方自治法も絡んどるところだと思うんですけれども、具体的に災害時等に備えた本会議を開けるように、どのような形でこれから検討を進めていかれようという、具体的にもし今お考えがあれば。

(議長) まず一段階でやらなきゃならないことは、いわゆるWeb会議をやるためには、議員のWi-Fi環境というものがきちっと整っていないことには実行できませんから、現状まだ調べておりませんが、県議会議員のWi-Fi環境がどれぐらいあって、そして環境を作ることが可能かどうかということを調査させていただいて、その上でオンライン会議ができれば、最高に良い環境になるんじゃないかなと思っています。その時に、それがまずできることによって、全員協議会なり、委員会、大災害で家を一步も出られないという環境のもとでも、会議ができるんじゃないかなと、そう思って所信表明で提案をさせていただきました。

(質問) 総務省にも依頼して提案したいというようなお話ありましたけど、その辺りについても、何か具体的な思いやスケジュールはありますか。

(議長) 総務省の見解では、やはり現在の法律からいきますと、その場にいることということになってますので、参集される議場や委員会室に議員がいないことには成立しないということになってますが、全議を通じて、総務省に見直しをしていただくように、もし大災害で議員が参集できない、特に県議会議員っていうと広域に広がっております。その中の過半数が寄るということも非常に困難な状況が出てくると思いますので、できましたらそういう方向で、全議を通じてお願いをしていきたいと思ます。

(質問) 続いて副議長にもお尋ねしますけれども、昨日の所信表明会でも述べられました、まずは高校生県議会予定どおり、8月ですか、開催できるようにということで、それから広聴広報機能の向上に向けても取り組んでいきたいというご抱負ありましたけれども、今、広聴広報機能の向上に向けて、具体的に何か取り組みたいことなどお考えあればお聞かせいただきたい。

(副議長) 具体的なところまでは考えてはおりませんが、かなり進めてきていただいておりますというのは非常に思っておりますが、それを県民の方にどの程度理解していただいておりますのかなというところもありますし、一つ一つ階段上がっていくより仕方がないのかなと思っております。少なくとも、今までのコロナの関係で延期もしくは回数ができてないものについては、できるだけ回数増やすなり、行っていくということを目指していきたいという思いを申し上げました。ただし、コロナの状況が減っていくという大前提の上でということでございますけど。具体的にこういう新しいことをというところまでは、現時点では考えておりません。

(質問) あと確認ですが、定例記者会見はこれまでのペースで、前任の正副議長のとおりのペースで進めていかれるというお考えですか。

(議長) 県民に開かれた県議会ということで活動しておりますので、定例記者会見というのは、議会の活動を県民の皆さん方に十分理解をしてもらうための大きなツールであると思っております、皆さん方に大変感謝をいたしております。そういう意味でいきますと、定例記者会見は続けさせていただきたいと、よろしくお願ひ申し上げます。

(質問) 白票および三重県議会議員以外の名前が書かれたとおぼしき無効票2票については、前野議長はどうご判断されるんですか。

(議長) これは私の不徳の致すところがまず第一かなと。日頃の県議会活動が、そういう目で見てもらえておるのかなと反省をいたしております。そういう意味からいきますと、今年1年間は、そういう信頼を得られなかった部分について、しっかり議長として頑張っていきたいと思っております。

(質問) 多分大方の見解で一致するところは、前野議長個人に対する、不徳の致すところとおっしゃった部分ではなくて、少なくとも今回の正副議長選のところで、第一会派と第二会派が手を結べば何でもできるというような、実は談合的な役選じゃないかということへの、議事運営の批判票の可能性が高いということをご指摘される方がいますけど、その辺だと思うので、今後少数会派の取り扱い含めて、前野議長体制でどのようにされますか。

(議長) 私はそんなふうには考えておらなかったんです。まさに自分の不徳の致すところということでございますけれども、少数会派の皆さんの取り組み、取り扱いについても今まで以上に真摯に向き合って、話し合いはしっかりとしていきたいと思っておりますので、よろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

(質問) あと議長就任挨拶で議会改革を推進していきたいとおっしゃいましたけど、前野議長体制の中で議会改革の目玉というのは、さっきおっしゃったオンライン会議ですか。

(議長) オンライン会議、そうですね。これはやっぱしね、デジタル時代って言われながら、なかなか議員個々になってまいりますとそういった機械を使うことに不慣れな方もおってもらいますので、その辺もしっかり勉強しながらWi-Fi環境も整えて、Web会議ができるような体制をまず議員が作っていくことだと思っておりますので、皆さんにご協力をお願いしていきたいと思っております。

(質問) 藤田副議長、同じく副議長選で無効票が4票あるじゃないですか。この中に1票なんか県議会議員以外の名前が書いてあったみたいですが、あと白票で、4票無効票があるんですけど、議長より多い無効票ですが、これはどのように受けとめられていますか。

(副議長) それは議長もおっしゃられたように、私のこれまでの政治活動に対する、私の活動も含めてですけども、不徳の致すところであろうと思っておりますし、それぞれのお考え、議員の皆さんはそれぞれお考えがあらうかと思っておりますので、そういう意味で、藤田宜三と書けなかったということかなと思っております。

(質問) 今後そこは副議長活動の中で、県議会議員の方以外はその票は投じられないわけだから、無効票4の、個人名書いた人入れると5ですけど、その辺含めて、理解に努めるという姿勢で変わりはないということですか。

(副議長) おっしゃるとおりで、多くの皆さんから支持をいただいたので、もっともって議会運営の中で、その辺のところを良くしていける、評価をいただけるように努力して参りたいなと思っております。

(質問) さっきの議長がおっしゃったことで、一つ確認させていただきたいのですが、オンライン議会を実現させるための進め方として、どこを通じて総務省に依頼をしていくっていうお話をされましたかね。

(議長) 全国都道府県議会議長会を通じてです。

(質問) まずは手順として、その全国都道府県議会議長会に、それを提案していくっていうことですか。

(議長) 私が勝手に個人で思っておってもいけませんので、議員の皆さんと同じ思いを共有しないといけないと思いますので、議会運営委員会か代表者会議に諮らせていただいて、どんな方向で進めていくかということでもたご議論をいただけたらと思っています。

(質問) ちなみに副議長は本会議のオンライン化についてはどのようなお考えをお持ちですか。

(副議長) 時代の流れというふうには理解いたしておりますし、議長がおっしゃられたように非常事態ということもございます。そのようなときにどう対応するかっていうのは、議会としてもこれから考えていく必要があるのかな。その準備をしていくという議長のお考えには賛成でございます。

(質問) 今デジタル化の話があったので、議長、副議長それぞれデジタルがどれくらい得意だとか、デジタルとの関わりについて何かちょっとエピソードがあれば教えていただけないでしょうか。例えばスマホをすごく使いこなしているとか、何かありますでしょうか。

(議長) 普通やと思います。パソコンを使って、皆さん方が使っているまではとても使えないと思いますけども、それなりの文書を作ったりエクセルやワードを使えると思いますので、普通の程度という認識でお願いしたいと思います。

(質問) 藤田さんはいかがでしょう。

(副議長) それはスマホの使い方ということでよろしいですか。

(質問) この1年デジタル化を一つ目玉としていくにあたって議長副議長が何かデジタルに強みを持ってらっしゃるとか、何かエピソードがあればお聞きしたいなと思っています。

(副議長) 49人の議員さんの中で、どちらかというところ下のほうにおける部類かなと思っております。インスタグラムであるとか、SNSは少しだけやらさせていただいておりますけども、普通という表現が当たるのかどうか分かりませんが、ワード、エクセル、プラスアルファぐらいかということ。

(質問) 議長にお伺いしたいんですけども、昨日の所信表明演説の中で、取り組みたいこととして最後に、4年間の議会活動の外部識者への意見をお伺いしたいとおっしゃられていたと思うんですけども、これをもう少し具体的に、どういう識者の方に、どういう点について評価してもらいたいのか、何か具体的に考えてることがあれば、教えていただけないでしょうか。

(議長) 三重県議会は改革先進県という自負をしながら、議会基本条例を中心に、議会運営が行われているんですが、それは第三者の識者の立場から見たときに、三重県議会は本当に議会改革が進んでいるのかというその判断を、一つの方向を示していただけたらありがたいなと思っております。議員で改革を進めているんだという意味は持ってますけれども、どれだけ進んでいるか、なかなか数字に表しにくいところもありますので、第三者の識者の方にご意見を頂戴をして、改選後の年間活動計画の中で、それを生かしたらなど、そんな思いで申し上げたことです。

(質問) 議会改革という点で、第三者から評価していただきたいということでしょうか。

(議長) 議会改革だけではなく、三重県議会の活動そのものが、どのような位置にあるのか、成果を上げているのか、調査していただけたらありがたいなと思っております。

(質問) 例えば大学の先生だったりとか、政策を専門に研究されている機関だったりとか、そういうところについてということでしょうか。

(議長) そうですね。

(質問) そういうことはこれまで県議会では、第三者に外部識者に評価してもらってことは、もし実現できれば今回が初めてということになるんですか。

(議長) 外部識者の方にそういう調査というよりもご意見を聞いたこと、過去にもあると認識してまして、今回が初めてではないと思います。

(質問) あまり自民さんがお好きじゃない北川さんの早稲田のマニフェスト大賞があるじゃないですか。あれは前野さんは外部評価とは見ないんですか。

(議長)確かに早稲田大学が出してありますあれ見ますと、三重県はそれなりに上位におらしていただいておりますので、その成果は出ていると、我々議員も胸張ってとまでは言いませんけれども、意識は皆してもらっていると思いますが、それ以上まだ上に行こうと思ったら、どんなことをすればいいのか、その辺も議会改革として考えていく必要があると思っています。

(質問)御会派の四日市市選出の永田さんが議長になられたときに、同じ70歳超えで73か4だったと思うんですけど、今期限りで議員を引退すると、だから議長ということで議長になられたんですけど、前野さんの場合は、ここで進退問題ちょっとお伺いするのは酷ですが、何かお考えはあるんですか。

(議長)そのような話をして私が議長に就いたということではございませんので、当然自分が政治活動がこれからも続けられるという強い意志のもとにこの1年間頑張っていきたいと思っています。

(質問)これで別に議長になったから引退を決めるということではないと、全く別個の問題ってことですね。

(議長)はい。

(質問)今日、差別解消条例が成立しましたけれども、あらゆる差別に対して県がいろんな形で介入するようにするという点では、都道府県で初めてという条例のようですけど、これの意義に関してお二人の考えを改めてお伺いしてもいいでしょうか。

(議長)今日も報告があったように、41回という回数を重ねて、本当に真摯に真剣に取り組んでもらったと思っています。この条例をいかに生かすかということは、これは県の仕事になってまいりますので、議会としてはしっかり監視をしながら、県の動きを見ていきたいと思っています。

(副議長)私もそのメンバーでございまして、当初は条例作るのか作らないかっていうところから始まりまして、いろんな方に参考人として来ていただいて、現実の問題としてまだまだ差別が残っているということが分かりました。この委員会の中で一番のポイントは、どうやったら差別はなくなっていくんだろうねということと、それから実際そのことで生きづらい方がみえるということなので、これをどうしていこうかというこの大きな問題を解決していくための条例にしないと駄目ですよというものが今回の条例の基本でございまして、それは話し合いながら進めていくと。罰則を与えてやるということではなしに、やっぱりみんなでの差別というものをなくしていきましょうよ。そのためには、実際、差別を受けた方の話を聞き、その反対の側の皆さんの考えも聞きながら、それをやっぱりみんなでやめていきましょうよという内容にしたということですね。そのためには、どういう形でということが具体的に書かせ

ていただいたという内容に私はなっていると思っていますので、三重県の皆さん方が本当に日々の生活を楽しくといたしますか、一生本当に三重県で住んでよかったと言えるような、すべての人がそういうことを言えるようなものになっていくのかなと、その一助にはなるのかなと思っています。

(質問)お二人のご関係これまでの、これからタッグを組んでやっていかれるお二人として何かこれまでつながりであったりとか何か。農業ご出身、花き農家さんですから第一次産業ペアかなとも思ったりしますが、何かエピソードはありますか。

(議長)今おっしゃっていただいたように、共通するところは農業ということになると思いますが、私も今もう農業は実際には他の人に預けて、家庭菜園程度しかやっておりませんので大きなことは言えませんが、農業という自負をしていますので、その辺は藤田議員とつながるところがあるのかなと思います。藤田議員の場合は大農家ですので、私とはちょっとスタンスが違うかなと思いつつ、これからもご指導いただきたいと思います。

(副議長)今おっしゃっていただいたように、前野議長は本当に過去においてやっていただいていますので、農業に対しては非常に造詣の深い方ですので、一般質問でもずっと取り上げていただいております。私も農業をやってきた、そして、農業やっている皆さん方とのつながりも深いということもあって、私の思いも前野議長はご理解いただいております。それと常任委員会、何度か一緒にやらせていただいておりますので、本当に良い関係で、私の場合は議長を支えてという立場で頑張らせていただきたいと思います、そんなふうに思っています。

(質問)それでは質問を終わらせていただきます。

(議長)ありがとうございました。

(副議長)ありがとうございました。

(以上) 14時50分 終了